



2005年に移転新築した病院外観



オープンと同時に患者が集まる待合室

最後の同診療所に診てもらいたいという。 「いずれも短期に効果が出るものではないが、ツフもいる。 グループ内の人材育成にも尽力。 独自に設けた奨学金制度を活用して、高校卒業後に准看護師として働きながら、看護専門学校に通い看護師資格を取得したケースも多く、その中には管理職に就いて活躍しているスタッフもいる。

平昌オリンピックに出場した、北見のカーリングチーム「ロコ・ソラーレ」に帯同したPTも在籍している。



北見市の白川整形外科 外来・入院から在宅へ内科（白川久統理事長・という流れの中で、自宅19床）は、先代の白川久に代わり、高年齢者をサポートする。 92年から11年間に、リハビリに重点を置く。 小規模多機能・グループ療に貢献している。

2代にわたり地域貢献 訪問診療の実現を目指す 北見医師会会長を務めた。

白川整形外科内科

（北見市）

地へ移転新築したのを機に、高齢者への支援拡充のため、親子2代にわたり地域医療に貢献している。 高年齢者をサポートする。 92年から11年間に、リハビリに重点を置く。 小規模多機能・グループ療に貢献している。

たいという長期通院患者が目立ち、訪問看護の場でも白川院長に来てほしいという要望が多いという。 そうしたニーズにこたえるため訪問診療を計画しているが、常勤と非常勤医師各1人とあつて、実行困難な状況が続く。 新たに内科医を確保できれば、実施する方針だ。

研修は、希望する内容のアンケートを取り、主として「医療安全」「接遇」「感じやすい環境」などに努めている。 部講師を招き、全職員参加で年4回実施している。 白川院長は、「医療介護一体で地域を支える体制を実現するため、5年3回はスタッフと所長が面談し、課題や施設からの意向を伝え、業